

「戦略経営」のリーダー養成目指す

4月、ビジネススクールが開校

「戦略経営」の担い手となるリーダーの養成を目指した「中央大学ビジネススクール（大学院戦略経営研究科）」が4月、後楽園キャンパスに開校した。ロースクール（法務研究科）とアカウンティングスクール（国際会計研究科）と合わせ、3つ目の専門職大学院の誕生だ。ビジネススクールは先発のロー、アカウンティングのふたつのスクールとの連携を図れる強みを持ち、経済界ははじめ各界から大きな期待が寄せられている。

学生記者 梶原麗奈 法学部2年

◆開校祝賀式・祝賀会開く

4月の開校に先立って3月19日夜、東京・内幸町の帝国ホテルで、中央大学ビジネススクールの開校祝賀式・祝賀会が、政・官界、経済界から来賓を招き、大学関係者はじめ担当教授、卒業生、それにビジネススクール第一期生となる入学生ら約350人が出席して、華やかに開かれた。

午後6時半から始まった祝賀式の冒頭、挨拶に立った鈴木敏文理事長（当時）は、「現在、日本にはビジネススクールが数多くあるが、経済界に籍を置く中央大学OBからの熱い要望があり、中

央大学も晴れてビジネススクールの開校に至った」と説明。そのうえで3つの特徴を挙げた。

第1に、「社会人が通い易い学校」として、夜間、土日曜に授業を設置。第2に、ロースクール、アカウンティングスクールの法律、会計の知識をふんだんに取り入れたビジネススクールであること。そして第3に、優秀な先生方を迎えことを指摘。

「予想していた4倍以上の多くの入学希望者が集まった。来年も再来年もこの盛況を受け継いでいきたい」と述べ、祝意を表した。

続いて来賓が祝辞。まず衆院議員の保岡興治氏は、「経営戦略」ではなく、「戦略経営」であるこ

とを強調し、「今までにないビジネススクールとして将来、ビジネススクールの開校に立ち会ったと誇りに思えるように、頑張っていたきたい」と祝辞を述べた。

◆経済界から「アツイ」期待

また、文部科学省高等教育局の前私学部長で内閣官房内閣審議官の山中伸一氏は、「アメリカには世界を代表するビジネススクール、スタンフォード大学がある。日本の学生も海外にビジネスの勉強に行くが、アメリカのビジネススクールのやり方では、日本のビジネスのやり方に必ずしも一致しているとは限らない」と日米の違いを強調。「中央大学のビジネススクールでは、古き良き日本の文化を活かし、共同体の精神を学び、日本的な良い教育ができるように日本型のビジネススクールを目指す」と述べた。

トヨタ自動車顧問で愛知県公立大学法人理事長の清水哲太氏は、「中央大学には、ビジネススクールが開校されたことによりロースクール、アカウンティングスクールの3つの高度な専門的教育を学べる機関ができた。それぞれのスクールの専門分野を活かし、相互に有機的機能を働かせ、優秀な学生を世に輩出することができる。企業側は、

あらゆる分野にわたって優秀な学生に会社にきてもらいたい」と述べ、経済界の期待の大きさを示した。

最後に、戦略経営研究科長に就任の高橋宏幸・ビジネススクール開設準備室長が挨拶に立ち、「中央大学のビジネススクールは他大学より遅れての出発となるが、長い時間をかけスタートした。そ



開校を祝って乾杯



挨拶する鈴木敏文理事長(当時)

れを活かしてグローバル化が進む社会の中で、世紀のニーズに答えられるビジネススクールを目指す」と力強く抱負を述べた。

このあと会場は祝賀会に移り、はじめに永井和之総長・学長が、「春からビジネススクールに入学する新入生を中央大学のファミリーの一員として祝福する」と挨拶。続いて久野修慈・学員会会長(当時、現理事長)が乾杯の音頭をとり、懇談



挨拶する永井和之総長・学長

に入った。

◆日本型ビジネススクールに興味

会場にはビジネススクールの第一期生となる人学生も多数出席していたが、その中から3人に話を聞くことができた。

豊田有希さん(東京大学卒)と武市典久さん(早稲田大学大学院卒)は、いずれも『株式会社電通』の社員で、会社から直接ビジネススクールへの派遣を指示された。

豊田さんは、「今まではアイデアばかりに頼って仕事をしてきた」というが、「企業の経営を戦略的にくみ取ると、ビジネスに更なる発見が期待



豊田有希さん(右)と武市典久さん(左)



権平みずえさん

できる」と考えるようになった。そこで中央大学にビジネススクールが開校すると知り、「日本の日本人による、日本企業のためのビジネススクールであることに興味をもった」という。

また武市さんは、「マーケティング理論を中心に勉強し、実務の世界と結びつけたい」というのが抱負。「ビジネススクールで学ぶ社会人同士の意見交換や人脈を重視し、ビジネスのプロフェッショナルを目指し、第一期生として恥じないように頑張っていきたい」と意欲を語った。

◆「しっかりと勉強してこい」と上司

一方、女性の入学生の一入、『株式会社ラック』

社員の権平みずえさん（武蔵工業大学卒）は、会社からの推薦で、会社として初めてのビジネススクール派遣という大役を担わされての入学だ。

権平さんは、

入学を決めた理由について、第1に会社からの交通の便が良いこと。第2に新設のビジネススクールであり、目立つこと。第3に経営とマーケティングを戦略的に体系的に学べることを挙げた。

また、「異業者とのディス

カッションができる点も魅力があった」という。

権平さん自身が勉強をしたいという強い意思を持っていたことに加え、権平さんの上司から「しっ



応援団のリードで校歌斉唱

宴もたけなわ中、来賓として挨拶した放送大 学学長の石弘光氏は、「新しい組織を立ち上げるのは非常に大変である。そんな中、日本では遅咲きのスタートだが、本格的に勝負しよう。第1回生はいつまでも第1回生。中央大学ビジネススクールとしての期待を背負い頑張ってください」と熱いエールを送った。

専任教員が舞台上で紹介されたあと、応援団リーダーとチアリーディング、ブラスバンドが登場すると会場は一段と華やかさを増し、全員で校歌を歌ってビジネススクールの開校を祝った。

祝賀会は最後に、出口純輔常任理事（当時）の閉会の辞で締めくくり、幕を閉じた。